

がんばろう

南三陸町

復興第 16 号

南三陸マイタウン情報

月刊

発行所

マイタウン企画

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84

TEL (46) 3069

後援:

志津川広報センター



「東日本大震災」から 2 年目を迎えようとしている 3 月 1 日金曜日、午前 10 時から志津川高校体育館において、平成 24 年度情報ビジネス科第 15 回・普通科第 65 回の「卒業証書授与式」が行われた。

修礼に引き続き卒業証書の授与は、情報ビジネス科 22 名（男子 12 名、女子 10 名）の 1 組代表として勝又龍也君（豊里）が第 566 号の卒業証書を授与し、普通科 93 名（男子 43 名、女子 50 名）で 2 組・3 組そして遠藤かなさん（志津川）が 4 組の代表として第 8903 号の卒業証書を高らかに受け取った。



日下毅校長の式辞では、地震・津波で壊滅的な状況の中で、常に前向きで仮装行列など志高旭ヶ浦祭は「福興祭」として、新しい息吹を吹き込み、新しい伝統を創った。厳しい学校生活の中で 20 名の「皆勤賞」があり、頑張ってくれた生徒に元気をもらったと言う。最後に「3 つのはなむけの言葉」を生徒に話した。一つに「志を高く持ち時代の流れを見て行動する」、二つ「人との出会いを大切に、感謝・謙遜・おもいやりの心をもつ」、三つ「最後まであきらめずねばり強くなって欲しい」。人生は決して平坦ではないと、生徒への言葉を結んだ。

町長の挨拶では、「私たちが前に進まなければならない気持ちにさせたのは全国・世界からの支援だった」と述べ「命の尊さ、家族や友だちの大切さを知った」と話してくれた。保護者の皆さんへは「若いはずつつとした人材が欠かせない。南三陸町はいつでも皆さんの郷里です」と最後を結んだ。在校生代表の及



命を守る安心安全な新しいまちづくり「南三陸モデル」の発信と題し、国土政策フォーラム in 南三陸町が、2 月 14 日午後 1 時 30 分から南三陸ホテル観洋を会場に東北各地から、関係企業・自治体・町民がこれからの町づくりについて考える、講演やパネルディスカッションが開催された。

開会のあいさつでは佐藤仁町長が「宮城・岩手・福島」の 3 県での開催で宮城県は南三陸町が会場となり、地域・集落の創造的な復興を」と語った。

基調講演では、東京大学地震研究所の助教授

曹洞宗尼僧団が三回忌法要

3月7日(木) 午前10時 徳性寺本堂

曹洞宗尼僧団は被災地に手作りのお地藏さんを届けます。

曹洞宗尼僧団は、東日本大震災の犠牲者の供養、被災地復興の願いを込めて、手作りのお地藏さまを被災地に届ける運動をしています。

11 月 6 日～7 日、曹洞宗宗務庁における尼僧団本部研修会で、研修の一環としてお地藏さま作りが行われました。研修会場は和やかな雰囲気、和気あいあいとしながらも、会員それぞれは被災地への想いを込めて作業を行っていました。このお地藏さまは、愛知県薬師寺前住職の浅野智鏡師のアイデアによるもので、身近な素材を工夫して作られてい

川ゆうた君の送辞では「先輩の厳しい指導の中にも優しさがあった」「先輩たちは輝いていた」「先輩たちに近づくように伝統を受け継いでいく」と誓った。

それに対する答辞では卒業生代表の菅原ゆうき君が、「合唱コンクールでは一人一人が自分の役割に全力をつくした」「どんな時にも 1 人ではなく友がいた」と言い、「いつでも家族がいて前に進めてくれた。新しいステージで自分を磨きたい」と両親への感謝を述べ、志高での事は私の宝ものだったと結んだ。

ご父兄の先生方への感謝の言葉は、あの震災を乗り越え卒業できる生徒の、3・11 からの 2 年の歩みに、「涙」があふれ言葉にならない姿に、出席されていた父兄席からも、目から溢れる涙をぬぐう多くの父母の光景があった。

南三陸町「住宅再建元年」

広域本吉気仙沼圏でもっとも早い「防災公営住宅」の着工式が、2 月 14 日に南三陸町入谷桜沢地内（敷地約 1 万 5300 m²）に、51 戸（集合住宅 42 戸・木造戸建住宅 9 戸）が建設される。その地鎮祭・着工式が多くの関係者を集め開催された。

着工式に先立ち「黙祷」と「町民憲章唱和」を全員で行った。町長の式辞では、待ちに待った朗報、気仙沼・南三陸で初めての「災害公営住宅整備事業」がスタートすると伝えた。「住宅再建元年」と称し、町民と力を結集して行きたいと話した。930 戸の災害公営住宅防災集団移転一号となる入

「大木聖子氏」が「地域で進める防災・減災対策～防災教育の展開～」と題し講演をおこなった。

大木氏は震災後に度々歌津中学校を訪れていたと話し、「ハードの対策だけではない防災対策教育の力が必要」と言う。

子供たちもできる「リスクマネジメント」とは、「危険な時には共に助け合い、声を掛け合う」「自分の命は自分で守ろう」。子供たちにしか新しいものを作れなく「学校ではなく、子供たちの中で自分で守る事を考える」実動部隊的なものが求められると話す。こうした防災教育が、世界のモデルとなるのが「南三陸町」と言う。

引き続きパーソナリティの本間さん、南島原藤原市長、宮城大学大泉学長、大木助教授、宮城県遠藤土木部長、佐藤町長による「これからの減災対策と合わせた新しいまちづくり」についてパネルディスカッションをおこなった。

津波から命を守る安全・安心な新しいまちづくり「南三陸モデル」を、全国へ発信していく。

ます。当日は浅野師の指導により、約 50 名の会員が 100 体を超えるお地藏さまを作りました。

尼僧団は来年 3 月に宮城県南三陸町の細浦徳性寺における三回忌法要を計画しています。今回作られたお地藏さまは、支部で作られたものとあわせてこの法要に届けられ、お参りされた檀信徒や被災された方がたに配られる予定です。3 月 7 日（木）午前 10 時（徳性寺本堂）

理事長の井田恵明師は「法要を営むだけではなく、お参りされた檀信徒や被災者に何かできないかという思いが、今回の活動に繋がった」と話しています。お地藏さまが少しでも多く、被災された方がたの元へ届く事を願います。



(ホームページより)



谷地区の着工式にあたり、「成長する一年としたい」と語った。先祖伝来の土地を提供いただいた地権者の皆さんに、感謝を申しあげると結んだ。

工事は平成 25 年 2 月造成着工、平成 25 年 8 月建築工事着工、平成 26 年夏には入居を予定している。造成方法は、UR 都市機構と南三陸町木造災害公営住宅建設推進協議会からの買い取りとなる。

町公営住宅建設推進協の鈴木健一会長は、安定した基礎を築くためには多くの協力があり、「木の香りがいっぱいの自然と調和した、そんな住宅を建てたい」と話す。南三陸町の産業復興と雇用提供を図っていききたいと祝辞を述べた。

式の最後に佐藤町長の赤旗の合図で、造成予定地の杉の立木を業者がチェーンソーにより 3 本が伐採されると、会場からは盛大な拍手が起こった。着工式の終了後には入谷婦人部から温かい「はっと汁」が振る舞われた。

建設は高齢者や障害者だけではなく、誰もが安全に利用できる、バリアフリー化に配慮し、入居者同士や周辺地域とのコミュニティの形成が図られるように、集会所のほか共同花壇や共同菜園なども整備する。



未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成24年(2012年)
～ 地元報道より ～

11 月の出来事

◆弘川ダム試験湛水始まる

南三陸町歌津、伊里前川の治水・利水を目的に建設が進められていた弘川ダムの本体工事がほぼ完了し、11 月 1 日から試験湛水が始まった。ダム湖の名称は公募によって「田東湖」と命名され、この日、現地で行われた式典で関係者らが湛水開始を祝った。

◆希望の道スピード着工

三陸道歌津一本吉間が 11 月 3 日に着工された。震災後の新規事業化区画の中では初めての工事着手となり、事業化から一年以内での異例の速さとなった。



◆外国人生徒と交流

南三陸町立志津川中学校で 11 月 5 日、東京都港区の西町インターナショナルスクールとの交流会が開かれた。

◆志津川小で植樹

南三陸町立志津川小学校の児童たちが 11 月 7 日、豊臣秀吉が花見を楽しんだとされる京都府・醍醐寺のシダレザクラを組織培養した苗木を敷地内に植樹した。

◆26 年夏まで完成

南三陸町役場で 11 月 9 日、東日本大震災対策特別委員会が開かれ、町当局は整備が先行している入谷桜沢、名足両地区の災害公営住宅の基本計画を示した。25 年 2 月には造成工事に着手し、26 年夏に完成する予定となっている。

◆活動成果を発表

南三陸町歌津公民館のカルチャー教室受講者による作品のミニ展示会が、歌津コミュニティ図書館「魚竜」で開かれた。三原色画や手芸品など各教室受講者による労作や町文化協会会員の生け花も展示され、来場者の目を楽しませていた。

◆埼玉縣信用金庫から義援金

埼玉県熊本市の埼玉縣信用金庫が 11 月 9 日、気仙沼市と南三陸町にそれぞれ 50 万円の義援金を贈った。被災地支援として企画した復興応援ツアーの参加者が寄せた善意で、9 月から 29 回にわたり旅行が組まれ約 2000 人が足を運んで募金した。

◆新成人に着物贈る

南三陸町入谷公民館で 11 月 10、11 の両日、新成人にプレゼントする着物の展示説明会が開かれた。



◆飲酒運転根絶に向けて呼び掛け

南三陸署などによる飲酒運転根絶キャンペーンが 11 月 16 日夜に南三陸町内で行われ、関係者らが飲食店を訪問し、飲酒運転の根絶に協力を呼び掛けた。

第 2 回輝き杯大会成績

昨年末の町後援のグランドゴルフ大会の成績です

順位	氏 名	打数	ホール	1 打	2 打	3 打	4 打	5 打
優勝	遠 藤 正 子	30	16	2	10	3	1	
2 位	浅 井 陽 子	33	16	3	5	4	3	1
3 位	越 後 幸 三	33	16	1	11	4		

《 ホールインワン賞 》

浅 井 陽 子	3	越 後 幸 三	1
首 藤 孝 吉	2	遠 藤 和 子	1
佐々木 紀 子	1	山 内 猛 行	1
遠 藤 正 子	1	阿 部 宗 則	1
西 條 亀代子	1	佐々木 利知子	1
阿 部 達 子	1	千 葉 春 一	1
阿 部 雄 衛	1	佐 藤 し め	1

ブービー賞

佐 藤 正 信

きらきら賞

吉 田 民 穂

最高齢者賞

女子 梅 沢 てるゑ

その他賞

当月 佐 藤 し め

当日 山 内 猛 行

この大会の後も「上の山緑地」でのゲームは、風の強い日でしたが 2 つの山がプレーを難しくしているコースで力強く球を打つ姿に元気をもらいました。



◆五十鈴神社に記念碑

南三陸町戸倉宇津野にある五十鈴神社に、地元の折立契約講によって東日本大震災記念碑が建立された。記念碑は、高さ 1.2 ㍎、幅 1.8 ㍎で、後世の人たちに向け、地震が発生したらこの記念碑よりも高い場所に逃げるようにとのメッセージが刻まれている。

◆ギンザケをおにぎりに

志津川湾内のいけすで育てられたギンザケ「銀乃すけ」を使ったおにぎりが、大手コンビニチェーン店ローソンで販売される。被災した生産者、加工業者らを支援する取り組みで、売り上げの一部は高校、大学進学を支援するための奨学金基金に寄付される。

小泉地区のガレキ焼却場の工事はじまる



◆かわいらしく「火の用心」

南三陸消防署は、志津川保育所の子どもたちがかわいらしい歌や踊りなどで「火の用心」を呼び掛ける 15 分ほどの DVD を作成し仮設住宅に配布している。

震災前までは同保育所の子どもたちが商店や工場に出向き、拍子木を鳴らして防火を呼び掛けていたが、震災で商店が激減したためビデオレターという形で防火を呼び掛けている。

◆間伐材を使い ペレット製造

間伐材など未利用の木材で製造されたペレットを新たなエネルギーとして使う実証調査事業が、南三陸町で行われている。町クリーンセンター内に設置されたペレット製造器で、林地残材や製材所での出る端材を小粒の燃料に加工し、町内のモニターが購入し利用している。

◆医師不足で運営困難を懸念

南三陸町病院建設基本計画策定委員会が 11 月 21 日夜、町役場で開かれ、公立志津川病院の再建に向けた町当局への提案について協議した。

医師確保のため、将来的に石巻赤十字病院と連携すべき一との意見が多く出された。



南三陸復興ステーション (入谷さんさん館となり)



◆待望のアワビ開口

南三陸町歌津で 11 月 22 日、震災後初となるアワビの開口が行われた。石浜漁港では。まだ暗いうちから小舟が沖に飛び出して漁場に陣取り、6 時の漁開始と同時に漁師たちが勢よく竿をしならせていた。

◆歌津で地域講演会

南三陸町のすばらしい歌津をつくる協議会と介護福祉団体ひなたぼっこによる地域講演会が 28 日、平成の森で開かれた。医師で作家の鎌田實さんが健康に生きる秘訣について講演し、「特に被災地は過緊張の状態が続いている」とし、「ぬるめの風呂につかることが効果的」とアドバイスした。

◆みなし仮設入居者が交流会

南三陸町被災者生活支援センターは、登米市のみなし仮設住宅で暮らす町民を対象にした交流会「南三陸再会サロン」を始めた。

町内外の仮設住宅団地では入居者同士の交流や生活不活発病予防などを目的とした「お茶っこ会」が開かれてきたが、みなし仮設住宅は点在しており、拠点もないことから交流会はほとんど実施されていなかった。

第一回 福祉まつり多くの町民が集う



◆元気に少年少女ビニールバレー

南三陸町少年少女ビニールバレーボール大会が 11 月 17 日、ベイサイドアリーナで開かれた。今年で 7 回目になる大会で、小学 3 年生以上で編成したチームが出場。少年の部に 8 チーム、少女の部に 9 チームがエントリーし、盛んな声援を受けながら白熱した試合を展開した。結果は以下の通り。

▶少年の部-①志小HTT②志小ビックバン
③戸倉ブルーシャークス 入小ゴールデンキングス ▶少女の部-①志小笑笑スター②入小なめこ7③戸倉ミックス 11 入小ブラック 10